

# 桐生市議会 令和6年度 公明クラブ 政務活動費 視察研修会等 報告書

- (1) 日 時： 令和6年6月26日(水) 13時30分 ～ 15時
- (2) 視察先： ・ 学校法人ISI学園 東京ビジネス外語カレッジ(TBL校)
- (3) 場 所： 〒171-0022  
東京都豊島区南池袋 1-13-13
- (4) 参加者：丹羽孝志 山之内肇

## ◎視察の目的

学校法人ISI学園はグローバル社会に適応する国際感覚と実務能力・実践力・創造力を持つ人材の育成を目指し、交際色豊かなキャンパスを持つ2校(東京ビジネス外語カレッジTBL校 と 長野ビジネス外語カレッジNBL校)と日本語学校(ISI外語カレッジ)を運営しておりますが、今回、その中にある1校・東京ビジネス外語カレッジTBL校と本市・桐生市が包括協定を結び、DX推進や教育関連事業の充実を図り「世界へ羽ばたく人材育成」を推進し、そして本市で開設になったデジタルクリエイティブ人材の育成拠点「ツクルン キリュウ」とのタイアップがなされることから、この学校法人ISI学園・東京ビジネスカレッジTBL校を視察しその実態を知っていく中で、改めて本市においてどのような効果が生み出されていくのかを考察する機会としました。



## ◎ 視察内容

学校法人ISI学園  
専門学校東京ビジネス外語カレッジ  
博士 都市工学 島田昭仁 様

校内を案内して頂いた島田先生からは ISI 学園に関しての概要と包括協定を結んだ桐生市との共同事業の構想内容などをお聞きする事ができました。

まず、ISI学園の本部はサンシャインシティにあって、その傘下にはいくつかの日本語学校があり、そのグループ校の中には、TBL校(学校法人ISI学園・東京ビジネス外語カレッジ)とNBL校(学校法人ISI学園・長野ビジネス外語カレッジ)という専門学校があり、2年間日本語を勉強し、そのまま学びたいと言う学生が主にTBL校やNBL校に入ってくる場合が多いということです。そして、さまざまな海外の大学と包括連携協定がなされており、例えば北京語言大学の東京校とも提携しており、北京大学医学部本科への留学の道も開けるという国際色豊かな学校という事を紹介されておりました。

そうした、ISI学園グループ内にある、今回視察したTBL校は、“年齢、国籍、経歴の異なる学生たちが集うグローバル環境が特徴の池袋にあるアットホームな専門学校で、学生たちは実践的な英語やビジネスの知識・スキルを身に着け、海外や英語に関わる仕事に携わりたいという自らの夢の実現を目指している所と紹介されており、そのTBL校のデジタルビジネスコースでは、少人数ですが各国から優秀な学生と志のある日本学生とでエリート教育を行っており、今回の桐生市との包括連携協定によりTBL校側としては、桐生市内の全ての高校を東京ビジネス外語カレッジの推薦入学指定校に選定し、桐生市の高校生の方々は、推薦にてTBL校への道が開けるので、是非お越しいただきたいと思っているとのお話でした。

そして、その包括連携協定の各種分野の施策の一つとして示されている桐生市のデジタル教育の拠点“ツクルンキリュウ”をいかに使うべきかと言う話においてでは、一般的には本校の優秀な学生が桐生市の小中高を教えるということで、グラフィックなどの創作クリエイターを育てると言うのが一番のテーマとなっているが、さらに上を目指し、都市OSを作るクリエイターを育てたいといったハイレベルなことを考えているとの内容でした。

例えば、“会津若松市”のスマートシティOSという、まちにクラウドを作り、そのクラウドの中でOSを動かす、様々なアプリケーションを動かすといった施策でしたが、ただ、そこで行われているのはあくまでも規定のOS(Windows・Mac)を使ったもので、桐生市においてはOSそのものを作るといったことを考えており、クリエイターを作りながら国産製で優れた性能を持つ唯一のOS(TRON)を使用し、全国でただ1つの、しかも先端のスマートシティOSを作る準備をISI学園の学生と講師とが一緒になって現在進めている最中といった、興味深く規格外な驚きの内容でした。





## 桐生市と学校法人 ISI 学園東京ビジネス外語カレッジと包括連携協定を締結

更新日 令和 5 年 11 月 14 日

令和 5 年 11 月 10 日、桐生市と学校法人 ISI 学園東京ビジネス外語カレッジとの間で「包括連携協定」を締結しました。

本協定に基づき、桐生市と学校法人 ISI 学園東京ビジネス外語カレッジが連携することで、DX 推進や教育関連事業の充実を図り、「世界へ羽ばたく人材育成」を推進し、地域活力の更なる向上を目指します。

次に掲げる 4 項目を連携事項といたします。

1. 桐生市内の全ての高校を東京ビジネス外語カレッジの推薦入学指定校に選定し、学びの場を提供すると共に、中学校、高校の授業ならびに課外活動と東京ビジネス外語カレッジの授業ならびにセミナーとの合同企画、実施を通して、ふるさと創生に資する人材の育成に関する事。
2. 桐生市の職員や市民等と東京ビジネス外語カレッジの職員や学生、卒業生が連携・協力して、世界で活躍できる人材育成システム構築に関する事。
3. デジタル人材育成に資する各分野の取組みを通じ、東京ビジネス外語カレッジの学生や卒業生等の首都圏の若年層が、桐生市への就職や移住先として選定されるための機運醸成に関する事。
4. その他、桐生市の DX 社会に対応できる人材育成と定着に係る様々な各種分野の施策における連携を通じて、持続可能なまちづくりに関する事。



## ◎所感及び当局への要望

今回の視察先でのお話を伺ったひとは驚嘆の連続であり、今後の桐生市の発展への可能性が広がっていくと考えられ、この様な学校と包括連携協定が結ばれたことに対しましては、桐生市にとって願ってもない事であると感じました。その理由としては、この学校の国際性であり、世界に飛翔できる進学システム、また他にはない独自性及び視点の広さでありました。まず、世界に飛翔できる進学システムとしては、なかなか試験では入れない様な海外の大学に編入という形で行く事ができる。例えば、北京語言大学東京校で学び北京語を習得し、そこから北京大学医学部本科への道も開ける。また、観光において世界屈指のオーストラリア・グリフィス大学においても※編入によりその道が開ける。

※ 学校法人 ISI 学園(本部:東京都豊島区、理事長 荻野 祥二郎)は、専門学校 東京ビジネス外語カレッジ(TBL)の『グローバルビジネス学科デジタル・ビジネスコース』において、グリフィス大学(Griffith University・豪クイーンズランド州)との間で 2021 年 6 月 14 日、海外大学編入・学士号取得プログラム「2+2」コース(単位認定型編入制度)の提携合意にいたる。

この様に、市内高校が今回の包括連携協定の中で示された推薦入学指定校になったということで、市内高校からT L Bに推薦入学していく中、T L Bで2年間勉強し、そこから海外の大学へ編入し2年間留学していくときに、※留学先の学士号が最短4年間で取得できるという事になり、桐生市内の高校生の世界への飛翔が身近で現実的なものになりました。

※ 専門学校東京ビジネス外語カレッジ(TBL)では、在学中に取得した単位が海外大学の単位として認定されるよう複数の欧米大学と提携しており、TBLの2年+2年の留学で学士号(四年制大学を卒業して得られる学位)を取得することができます。

また、他にはない独自性の視点としては、桐生市の都市O S(あらゆるデータを集積・分析し、自治体や企業が連携する基盤)を作っていく中で、そのO Sを“トロンO S”を使って取り組んでいく考え・構想があるということです。

トロンO Sとは、日本で作られたO Sで、WindowsやMacよりも性能や技術面において優れたO Sと言われており、日本では、約35年前に学校教育用のパソコンをそのトロンO S使い生産して、各学校に配布し使用する構想であったが、アメリカのスーパー301条(貿易相手国の不正な取引慣行に対して当該国と協議することを義務付け、解決しない場合の制裁について定めた条項)でその対象となってしまう、その使用計画が頓挫してしまった幻のO Sであ

ります。しかし、現在のTRONは2023.6.22に米国 IEEEに認定（世界標準のOSとなった。その他にIEEEに認定されているOSはPOSIXだけで、WindowsやMacは認定されていない、）となりましたが、これまでもIoT（「Internet of Things」の略で「モノのインターネット」の意味。私たちの周囲にあるモノがインターネットにつながる仕組みのこと）のための組込OSとして携帯電話の電波制御をはじめとして家電製品、オーディオ機器、デジタル機器、車のエンジン制御、ロケット、宇宙機の制御など世界中で使われておりました。

今回、桐生市において、その“トロンOS”を使用した唯一無二の独自性のある都市OSを学生と一緒に準備（トロンが2018年にIEEEへ著作権の譲渡宣言をした事により面倒な縛りがなくなった！？）して作っていこうとする構想があると聞きしましたが、本市としては、その構想通りに都市OSを作ることとなれば、それが市内学生・若者への可能性を引き出すきっかけとなり、かつてのシリコンバレーの前身（彼らは郊外のガレージでコンピューターをいじるところから始めて、最後はすさまじい大成功をおさめ企業を率いることになる。）のように、さまざまな企業が若者たちによって生まれる素地が出来上がるのではないかと夢は広がりますが、実際に都市OSが出来上がった事によってもたらされる効果としては、人口減少や人手不足などで苦慮している本市にとって革新的な利便性がもたらされると共に都会にいる必要がなくなるようリモートワークの完備がなされ、持続可能なまちに繋がっていくのではないかと期待が膨らみます。

いずれにしても、そうしたことから、本市への要望といたしましては、こうしたISI学園との縁を最大限活かして、世界へ羽ばたく人材を幾重にも輩出して頂ければと希望いたします。

